

ぼくらの BOKURANO ART BRUT ニニミ いきる ニニミ つくる

ぼくらのアール・ブリュットについて

2017年のアール・ブリュット in 上越展のときに、新潟県アール・ブリュット・サポート・センター NASC が障害のある方が作られた作品を見せ合う機会を作ったり、展示研修会を行いました。そこで集まったメンバーで初めて展覧会が開催されました(会場：旧今井染物屋)。それを機に、上越地域の障害のある表現活動をしている人たちがネットワークとなり、2018、2019年と毎年1回展覧会を開催しています。

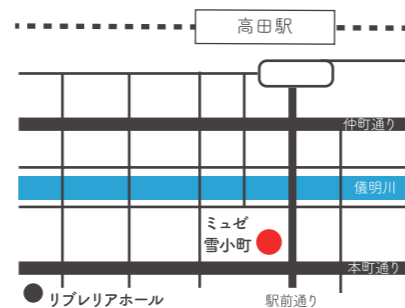


アール・ブリュットとは

アール(Art)は芸術、ブリュット(Brut)は「磨かれていない(加工されていない)生(き)のままの」という意味を持つフランス語です。文化的な伝統や流行、教育などにとらわれず、独自の発想と方法により制作した作品のことを指します。

アクセス

ミュゼ雪小町 (あすとぴあ高田 5階)
Tel 025-521-4025 Fax 025-521-4026
えちごときめき鉄道 高田駅から徒歩 5分
※駐車場有。儀明川側に立体Pの入口があります。



問い合わせ

新潟県アール・ブリュット・サポート・センター NASC (社会福祉法人みんなでいきる法人本部内)
電話：025-530-7264 FAX：025-530-7261
E-mail：info@niigata-artbrut.net
https://www.niigata-artbrut.net/

新型コロナウイルスの感染防止対策とお願い

- ・展示室の混雑状況によっては入場制限を行う場合があります。
- ・館内ではマスクの着用をお願いします。
- ・ご入館後は手洗い、咳エチケットなどの一般的な感染症対策をお願いいたします。
- ・咳・発熱などの症状がある方、体調に不安のある方、新型コロナウイルス感染者や感染の疑いが高い方々に濃厚接触のあった方はご来館をご遠慮くださいますようお願いいたします。



ぼくらの BOKURANO ART BRUT ニニミ いきる ニニミ つくる

10.30(金) ~ 11.3(火) 10:00 ~ 17:00
※今後の新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、日程の変更等が生じる場合があります。



- 会場 **ミュゼ雪小町** (上越市本町5-4-5)
- 主催 **ぼくらのアール・ブリュット実行委員会**
- 助成・協力 **公益財団法人 真柄福祉財団**
- 協力 **新潟県アール・ブリュット・サポート・センターNASC**

令和2年度 新潟県障害者芸術文化活動普及支援事業



ぼくらのアール・ブリュット

ここでいきる ここでつくる

ART BRUT

アートって難しい？

アートって分からない？

ぼくらのアール・ブリュットに心の壁はありません。

地元の表現者や家族、支援者が自分たちで作った展示です。

作品も表現者も作り方も人それぞれ。平面だったり立体だったり、

綺麗だったり不思議だったり、手に汗握るパフォーマンス、

個性豊かな表現に何だか心がざわざわする。

どんな見方も感じ方も正解・不正解という壁はありません。

心に壁を作って見てたらもったいない！

ほら、その壁をこえて、壁のない表現に触れてみてください。

壁の先、ぼくらはここでいきる。ここでつくる。



押山 優樹 YUUKI OSHIYAMA

僕は4歳頃から電車が大好きで、電車の中でも国鉄の車両が大好きです。小学生の頃から電車の撮影をすることが好きになりました。今は一眼レフカメラで撮影しています。鉄道だけではなく、景色も撮影しています。僕の撮影した写真を見ながら旅行に行った気分になってもらいたいです。僕の夢は、日本全国の鉄道に乗ることです。全国のジョイフルトレインにも乗りたいです！これからも、いろんなところで鉄道に乗って撮影をしていきたいです！



中村 直忠
NAOTADA NAKAMURA

子どもの頃、地響きのように強く打ち鳴らされる走行音と汽笛、激しく噴き出される黒煙や水蒸気が、聞こえない僕の耳と身体にすごい振動とかすかな音が喜びと感動を与えてくれました。それ以来、SL 蒸気機関車の虜です。満1歳の少し前に高熱で生死をさまよい、それ以来耳が聞こえなくなりました。小学校6年生頃に何か一つでも趣味を持たせたいという思いから、カメラを与えてくれた父には本当に感謝しています。



石塚 杏珠
ANJU ISHIZUKA

はじめて絵を描いたのは4才のころ。はじめてかいた絵はなぜか"冷蔵庫"。5才になるころ"人"の絵を描きはじめた。ーそれから10年、描く絵は変化をとり、カラフルな色使いをするようになりました！最近では洋服の絵をかき、毎日眺めて囲まれるように床にならべ、うっとりとしています♡そんなあんじゅの世界を楽しんでいただけたらうれしいです！



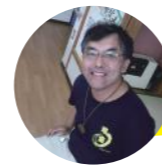
佐藤 葉月
HADUKI SATOU

1984年生まれ。自閉症スペクトラム当事者。32歳の時、ハガキサイズのスケッチブックと出会い絵を書き始める。単色で不思議な模様の抽象画を制作。独特なタイトルと作品を見て感じた一言を書いた裏面までが一つの作品。絵もさる事ながら、エッジの効いたタイトルと一言のファンも多数。蚊に刺されやすいO型。



西須 奈津子
NATSUKO SAISU

動物を描く事が多くある彼女だが、最近特に力を入れて描いているのが「猫」である。写真などから自分のイメージに合うものをじっくり探し、描き始めるが、一つとも写真を写すものはない。写真からさらなる想像を膨らまし自分の世界にと変えている。その絵は、とても愛嬌のあるしぐさなどの確にとらえくすと笑ってしまうものが多い。



坂井 亮円 RYOEN SAKAI

僕が織物をやる前の10年以上前の30代後半のころの作品を今回は自分を回想する意味で発表したいと思います。僕は写真や絵画に挑戦し、最終的に今は織物をやっています。でもそんな僕の10年以上前のいわば青春を振り返る意味で、今回はこんな絵画の作品を発表したいと思います。つたない作品ですが、どうかご覧ください。



梅川 稚樵 本名：哲資ひろし
CHISYOU UMEGAWA

1941年11月15日生まれ。幼いころから言葉を話すことができず、母の教育により絵を幼少より描き、働きながら絵をかき、上越市展で無鑑査になった水彩画家です。2017年7月21日75歳で永眠されていますが、障害を持ちながら、上越市展で無鑑査になった優れた才能を持っていた方をこの持ち寄り展で紹介し、彼をしひたいと思い、出品いたしました。



友人代表坂井亮円記



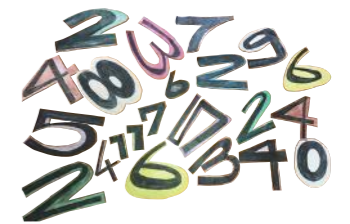
堀井 銀次
GINZI HORII

絵を描く活動にあたって特別な指導は受けておらず、紙・画材を自ら選び制作に打ち込んでいる。サインペンを好んで使い、細部まできちんと塗りつぶす作業は丁寧に時間をかけて行っている。絵を描く際は、下書きなど一切せず直線も定規など使わずに描いていく。彼独特の色彩感覚はとても色鮮やかで多くの人の目を楽しませている。



馬場 悠斗
HARUTO BABA

物心がつく前から数字に興味を持ち、5歳頃からクレパスで数字を描くようになると紙にとどまらず床でも壁でも天井でも、構わず描いてしまうほどのめり込んでいった。時期によって描き方は変化するが、ずっと数字を描きつけている。数字と色の組み合わせには、1はブルー、2はグリーン、3はピンク…のように規則性がある。16色のクレパスを混ぜて今日も数字を描く。



長田 匠
TAKUMI OSADA

カラフルで楽しい絵を描くことが好きです。幼少期はカレンダーの裏紙いっぱい魚や恐竜、キノコなどを黙々と描いていました。今は自分がおもしろい、かわいと感じたものを描いています。絵の具を混ぜ合わせて好きな色を作る。その楽しさを知り、思いのままに描きます。「絵を見てくれた人が笑顔になりますように」



情報資格試験
JYOHOU SHIKAKU SHIKEN

かばねになる。

生きていたものが、次の瞬間に命果て骸になる。食べていたお弁当をゴミ箱に入れた瞬間に生ゴミになる。1秒前は食べ物だ。ゴミをガベージコレクションして見方を変えたらアートや表現になる。1秒前は生ゴミだ。これがあなたの障害者手帳だと渡された瞬間、障害者になる。手帳を掌にのせる1秒前は障害者ではない。健常者界から蹴り出され障害者界に入り切れない1秒に閉じ込められた今、かばねになるモノの姿。

期間中毎日 10:30～、14:30～ の1日2回、ライブパフォーマンスを行います。なお、出演者は当事者であり体調急変等によっては公演出来ない場合がございます。あらかじめご了承下さい。

